



【増毛】江戸末期に開削された増毛山道(留萌管内増毛町別対―石狩市浜益区幌)の完全復元を目指すNPO法人増毛山道の会(伊達東会長、会員約280人)と留萌振興局は、岩尾分岐から雄冬山(1977m)山頂付近までの約5kmを新たに復元した。山道の本線部分約27kmのうち、増毛町側の約16kmがほぼ復元され、残るは浜益御殿(1038m)を経て石狩市浜益区幌に至る約11kmとなる。

増毛山道は、江戸時代の商人で場所請負人の伊達林右衛門が1857年(安政4年)に開削。1941年(昭和16年)に山道にある武好駅通が廃止され、その後はササに覆われた。同会と留萌振興局が2010年に増毛町別対―岩

増毛山道 進む復元

雄冬山北側16km整う

尾分岐間(約11km)と、支線の岩尾分岐―岩尾間(約5km)を復元。一般開放はしていないが、11年から公募の体験トレッキングを開いている。

同会は留萌振興局から管理委託を受け、7月中旬から急傾斜帯が多い岩尾分岐から雄冬山の山頂近くの1等水準点(標高1031m)付近までササ刈りを実施した。伊達会長は「暑寒別岳や群別岳などの一大パノラマが楽しめ、トレッキングの魅力が倍増した」と話す。



増毛山道の新規復元ルートで、1等水準点を探す増毛山道の会の会員(留萌振興局提供)